

第6期 福岡市男女共同参画審議会
男女平等教育・地域支援部会（第1回）議事録

1. 開催日時 平成27年7月6日（月）15：25～16：35
2. 場 所 福岡市役所 1504会議室（15階）
3. 出席者 （出席委員 5名）
緒方委員、日高委員、藤井委員、前田委員、増川委員
（欠席委員 1名）
石川委員
（福岡市 1名）
市民局男女共同参画課長
4. 傍聴人 なし
5. 議 題 （1）部会長、副部会長の選出について
（2）男女共同参画基本計画（第2次）の平成26年度実施状況に対する
評価について
（3）男女共同参画基本計画（第3次）の原案について
6. 議事概要 （○…委員 △…事務局）

【議題1 部会長、副部会長の選出について】

部会長・副部会長について、事務局より、それぞれ日高委員、緒方委員の選任を提案。
委員からの異議なく、承認された。

**【議題2 男女共同参画基本計画（第2次）の平成26年度実施状況に対する評価に
ついて】**

- ①「男女平等教育の推進」について

○ 副読本については、これまで担当課に部会に出席してもらい直接ヒアリングするなど、重ねて議論してきたが、小学校の活用率は高いが、中学校は低い状況である。活用率は1時間の授業で副読本を活用したかを聞いている。男女平等教育は人権教育や道徳の中で行っているが、この副読本を使って丸々1時間の授業ということになると、この辺が限度ということである。では、今後どういう切り口でいくのか、その辺のところも踏まえて検討していきたいと思っている。

△ 教育委員会が別に行っている統計では、少しの時間でも副読本を使ったら「実施した」とカウントしているようである。1限全部を副読本で授業したということでは、なかなか伸びにくいと聞いている。

○ 高校や大学で学ばないのであれば、男女共同参画という意識や概念に全く触れないまま、社会に出るという恐れもある。だから、義務教育を出るまでに1回は、1時間ぐらい使って男女共同参画について学ぶのは絶対に大事じゃないかなと思う。

○ 学校には数十種類の副読本が送られてくる。その中で活用してもらうためには、どこで活用するかをカリキュラムとして位置づけるといいと思う。例えば、「我が家の独立記念日」は家庭科、「夢に向かってチャレンジ」は立志式など。道徳の授業にも使えらると思う。

○ 今まで、このような具体策は出なかった。今後、具体的にどうしたらいいかを検討したい。

○ 道徳が教科化されて特別の教科になって、来年から移行期に入るので、来年がチャンスと思う。福岡市は今、職場体験や立志式などと絡めて、体験を重視した道徳をつくろうと、「こころ輝くまち」ということで、公民館ともタイアップしてやっている。今はモデル校だけが実施しているが、それをさらに進めて、来年から、全校で実施することになっているので、どの学校も今からカリキュラムをつくっていくと思う。

○ 副読本「わたしらしく生きる」の内容の見直しにあわせて、カリキュラムに合わせた内容にするのも一つの手だと思う。使いやすいもの、現場の先生が組み込みやすいものにしてほしい。

②「地域における男女共同参画推進活動の支援」について

○ 第3次計画では、地域に関する数値目標を立てにくいという意見もありましたし、何か地域で目玉になるようなものを考えたいなど思っている。2次計画では「みんなで参画ウイーク」をいかにして浸透させるかを今まで取り組んできた。何かこれについて意見はあるか。

○ 地域では、「みんなで参画ウイーク」にあわせて取り組んでいる校区は多いと感じるが、何かしなくてはという意識で取り組んでいるのが地域の現状だと思う。今度、ハンドブックを改訂したので、それを活用して変わってくるかなとは思っている。

男女共同参画は、そこに女性と男性がいればよいと思っている人が多い。男女で一緒にいるのが男女共同参画なので、女性も入ってという程度の認識である。

でも、公民館活動での風景は少し変わってきたと思う。湯飲みもみんなで片づける、机運びもみんなです。「男のくせに泣いたらいかんとか言ったらいかんとよね」など、「男女共同参画はこういうことなんよね」みたいなことが出てくる感じはある。

○ 男女共同参画で一番難しいのは地域だと思う。市役所や国の役人、あるいは民間企業で何人以上とかというのは、ある程度できると思う。

○ 地域が何で難しいかというのと、活動するところと暮らすところ一緒だから。

○ 私は今、町内会長をしていて、会議に出ると、70才以上の男性の方が多くて、中には80才近くになっても中心で動いている。そういう人たちは、男女共同参画の考え方について習ってもいないし、とてもじゃないけれど自分たちの時代はそういう考えじゃなかったと。時代背景があるので、急には変わらない。

△ 地域の担い手不足というときに、女性は数に入っているのかなと思う。

男性、女性じゃなくて、いろいろな事情を抱えながらも、みんなで都合をつけながら活動をする方がいいと思う。

○ 今年、早良区で、女性の公民館長の割合が48%になった。

- 公民館長を選ぶ選考委員会が女性を選んで、話が来たときに、その女性は引き受けている。
- 選考委員会はあるが、最終的には各自治協の会長が公民館長を推薦している。
- 早良区は以前、荒瀬副市長や井上市民局長が区長だった。また、早良区に大学が二つあるが、両方とも女性が学長であるので、刺激を受けているのかもしれない。
- 女性のリーダー像があるといいと思う。
- 「みんなで参画ウィーク」の取組校区数が138校区から136校区に減っている理由は何か。
- △ ほとんどの校区で取組が行われていると考えており、減った理由は分析していない。
- 次回までに調べてほしい。
- 中学生の副読本見直しの検討状況についても、次回報告してほしい。

【議題3 男女共同参画基本計画（第3次）の原案について】

① 各論（基本目標1）について

- 「男は仕事、女は家庭を守るべき」という考え方の数字は、何歳から何歳までか。
- △ 20歳以上の男性、女性の平均値である。
- 技術・家庭科という、中学校の教科が変わって男女共修になったのが30年前。それまでは女は家庭科、男は技術科という、これと全く反する授業が教育の中で行われていた。そのころに学習した最初の子どもたちが、今、小学生や中学生の親になりつつある。30年前の親が今は70とか80歳になっていると思うが、その方たちと、今の学校への父親の参画意識は全く違う。だから、年齢別にとれば、かなり意識の差が出るのではないか

と思う。ちょうど過渡期なので、十把一からげで意識を見ても、あまり分析の役には立たないかもしれない。

男女共修の授業になってからは、少しずつ意識は変わってきていると思う。授業をしていても、若い男の人は台所に立つことに全然抵抗がなくなってきたと感じる。全部一緒だと、その若い人の意識の割合が薄れてくるのかなという感じを受けたので、年齢別にどれぐらい意識が違うのか知りたい。

△ 男性は、「そう思う」という人が若くなるにつれて少なくなっているが、女性はそこまでは変わらない。

① 各論（基本目標6）について

○ 地域でこそ女性が意思決定の場に参画しづらい状況にあることを、この目指すべき社会の枠の中にきちんと書いておくべきだと思う。

例えば、基本目標3には「長時間労働などの従来働き方の見直し」ときちんと書いてある。基本目標の1には、「市民一人ひとりが従来分担意識を解消し」、基本目標2は「暴力が根絶され」とある。ここに横たわる問題を克服して、こういうものを目指すというように、克服すべきものをきちんと書くべきではないか。

○ 「みんなで参画ウイーク」の裾野は広がっている気がした。男女が一緒に参加しているだけでもすごいと思うので、そこから一歩進んで、男女共同参画的な内容を入れ込んでいくといった質の充実という点を入れるといいのではないか。